

別紙2 新たに「選定」した建物や庭園

NO	選定番号	区	選定名称	推薦理由（抜粋）
1	第 14-011 号	西京	ねすと nest	大原野に残る農家住宅である。建物は改修され、現在は陶芸の工房と教室になっており、南向きの大きな窓は解放感と広い庭とのつながりも感じられ、うまく活用されている。
2	第 14-012 号	左京	きゅうおかもといいいん 旧岡本医院	昭和 9 年 (1934) に建てられた医院併設住宅で、医院部分の洋館と住宅部分の和館がある。ガラスや建具はほぼ当時のまま使用している。廃業後長年空き家であったが、令和 6 年 (2024) 4 月から、賃借され文化芸術拠点として活用されている。
3	第 14-013 号	南	ながおかけ 長岡家	西国街道沿いに建つ農家住宅。茅葺にトタンを被せた母屋、そのわきに大きな「おがたまの木」が生えている。長屋門をもつ明治期の建物。
4	第 14-014 号	南	とくらけ 戸倉家	煙出しのある、大規模な農家住宅で、京都の農村部の原風景のひとつである。昔の農家の生活をうかがうことのできる歴史的建造物である。敷地内に新しい建物も見られるが、昔からある建物に手を入れながら綺麗に維持されている。
5	第 14-015 号	右京	おがわけ 小川家	家屋は昭和 10 年 (1935) 頃の建物で、庭には 100 年以上生息する樹木が多数あり、ハナヤスリ、フユノハナワラビなど希少種が自生している他、池がありモリアオガエル、イトトンボも生息する。庭には灯籠 10 基、縁先手水鉢 3 鉢、蹲が 3 箇所あり、敷地の多くが苔に覆われその種類は 13 種に上る。
6	第 14-016 号	伏見	さかぐちけ 坂口家	かつて塩干物商を営んだ商家住宅。主屋は切妻平入りのつし 2 階建、伝統軸組工法で、一文字瓦、真壁、檜木造り、虫籠窓、面格子といった意匠が揃い、京町家と同様の形式を取る。ダイドコにはミセノマの様子を伺う千本格子の建具が残り、往時の商家の佇まいが伝わる。

NO	選定番号	区	選定名称	推薦理由（抜粋）
7	第 14-017 号	伏見	ばん ぼせんこうじょう 馬場染工場	大正 2 年（1913）の創業時、型を使い刷毛で着物を染める型友禅の工場として建てられた建物で、現在も昔ながらの技術を受け継ぎ手作業での型染めを行っている。木造トラス構造の小屋組により、作業に必要な大空間を確保している。染色の伝統技術と共に、未来に残していきたい建物である。